

ロクリアン正岡作曲（1998）：ロクリアン交響曲「“7”の神通力」 - 室内オーケストラによる

その楽譜を我がLMHPに掲載するにあたって。

初演のライブ録音（日本現代音楽協会主催、指揮：小鍛冶邦隆）はCD「ロクリアン正岡作品集・I」に収録。

今回の楽譜は当時の手書きのものにわずかな改変と調整を施しつつフィナーレを使って書き直したものです。

ネット掲載するに当たり、弦楽器を増やすなどオーケストラ化も許容することにいたしました。その場合、どこをs o l oのままにするか、あるいはD i v i s iにするかなど、演奏者側にお任せすることにしました（「(室内)」）と言うようにしたのはそのためです。

その他-

1) 「“7”の一」とありますが一

全音階の音の種類が7個です。

また時間的設定については

4分音符×7で一小節

一小節×7で一中節（造語）

一中節×7で一大節（造語）

一大節×9で全曲

2) 今回、テンポ表記のみで楽想については特記しませんでした、

“7”に徹しつつも楽案からいろいろ表情分けをし、本番では表現主義的になってすら構いません（更なるテンポ変化も場合によっては有り得ましょう）。

3) 楽譜にある通り、コントラバスもグロッケンシュピールも実音表記です。

そのために「8」が上下についたト音記号やヘ音記号も使用。

5) 臨時記号は同一小節内の同高音についてのみ有効です。

6) 持ち替え等について-

フルート：ピッコロ、アルトフルート

オーボエ：コールアングレ（イングリッシュホルン）

クラリネットA管：バスクラリネット、クラリネットEs管

トロンボーンは終始テナーバスを使用すること

マリンバ：グロッケンシュピール、メタロフォン、チューブラーベル

標準演奏時間：四分音符 162 で約 17 分

最後になりますが、演奏については指揮者には特殊な拍子で負担もありましょうが、演奏者にとってはアマチュア団体でも決して難しくなく、しかも鑑賞者と共に新鮮な音楽的境地に諸に浸れる作品かと存じます。

その他については随時書き加えて参りますが、待っていらっしゃる団体もあるので本日のところはこの辺で。